

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320033

研究課題名(和文)南宋絵画史における仏画の位相 都と地域、中国と周縁

研究課題名(英文) Multifaceted Identity of Buddhist Painting of the Southern Song Period: From Perspective of Capital and Region, and of East Asia

研究代表者

井手 誠之輔 (Ide, Seinosuke)

九州大学・人文科学研究科(研究院)・教授

研究者番号：30168330

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,200,000円、(間接経費) 2,760,000円

研究成果の概要(和文)：南宋仏画の制作の場を考察することは、中国の周縁に位置する朝鮮や日本で、多様な中国の土儀から、何が取捨選択され、どのようなフィルターを通して受容されたのかを知る格好の材料となる。本研究では、従来、無視されてきた南宋の都杭州における仏画制作の多様な様相を理解するための有効な概念モデルを提示した。一部の作例について寧波仏画とする見解もあるが、宮廷画壇との直接的な交渉をもたない寧波仏画は、議論の枠組みとして杭州仏画の存在を前提としなければ、南宋絵画史上、十分に機能しない。南宋仏画の故郷における様相の解明は、南宋絵画史にとどまらず、東アジア絵画史全般についての議論の枠組みを再構築するものとなった。

研究成果の概要(英文)：Considering the original place of Southern Song paintings in Buddhist subject is actually very important to elucidate what from an immense background of China, Korea and Japan deprived of, and also to understand Korean or Japanese filter of adoption. By proposing a conceptual model for their production background in Hangzhou which has been ignored in the perspective of the Southern Song painting history until today, the study clarified their importance and multifaceted appearances. Even if the paintings have its origin from Ningbo, how could they have relations to the central canonical visual forms? In this case, we also need to consider their prototypes in Hangzhou which could have more direct interactions with the Imperial Painting Academy. To discuss about their production origin, inevitably conducted us to reconstruction of the new perspective of the history of the paintings of the Southern Song Period and East Asia.

研究分野：美術史

科研費の分科・細目：美学・美術史

キーワード：南宋仏画 中国 周縁 中央 地方 杭州仏画 大徳寺伝来五百羅漢図 寧波仏画

## 1. 研究開始当初の背景

中国の南宋時代に制作された仏画は、現存作例のほとんどが日本に伝来してきたことから、従来、日本の中世仏画の制作における規範的な役割に焦点があてられ、中国絵画の日本への影響伝播、あるいは日本における中国絵画の受容という観点から議論されてきたため、南宋仏画の作品間に見られる多様性は等閑視され、個々の作品をうみだした南宋時代における文化的・社会的なコンテクストへの関心は希薄であった。1990年代を迎えると、日本の美術史学における新たな研究動向に刺激され、南宋仏画の研究においても、美術概念にもとづく制度の解明とその批判、近代国民国家を前提とする自国美術史の歴史観を東アジア的観点から相対化する作業が継続され、南宋仏画をとりまく制作当時のコンテクストの解明に飛躍的な進展がみられ、神奈川県立美術館や奈良国立博物館における特別展の開催をとおして網羅的な展観が相次いだ。こうした特別展の開催にともなう作品の網羅的な展観や国際的な研究関心は、既存の南宋絵画史の枠組みでは容易に解釈できない様式的振幅をもつ作品群を、如何にコンテクストの解明とあわせて南宋絵画史に位置づけうるのかという新たな問題をも提起するに至っていた。たとえば、寧波仏画の担い手であった陸信忠の作例や、大徳寺五百羅漢図を制作した林庭珪や周季常の作例では、南宋の都杭州の宮廷絵画や、中央以外の諸地域における過去の絵画伝統に対する理解や距離も、画家や個々の作品間において、必ずしも整理された様態を示しているわけではない。とくに大徳寺五百羅漢図の制作地が、都の杭州かそれとも寧波かで容易に決着をみないのは、この間の複雑な事情を如実にしめすもので、既存の宮廷や都を中心

とする南宋絵画史の枠組み自体をも、大きく揺るがす状況がうまれている。

本研究は、こうした研究現況に鑑みて、南宋仏画の諸作例を、正しく南宋絵画史の時空に位置づけることを目的とし、南宋絵画史の枠組み自体を再構築するために立案された。

## 2. 研究の目的

本研究は、その重要性が遅れて認知されるに至った南宋仏画の諸作例を正しく南宋絵画史の時空に位置づけることを目的とし、1) 従来の宮廷や都を中心とする南宋絵画史の枠組みを批判的に検討し、2) 南宋の領域内における中央と地域との関係性に筋道をつけ、3) 東アジア世界における中国と周縁との関係性を視野におさめ、最終的に 4) 南宋仏画の位相を定置しうる南宋絵画史の枠組みを再構築し、概念モデルとして提示する。

## 3. 研究の方法

南宋仏画の位相を定置しうる南宋絵画史の枠組みを再構築するための概念モデルを構築すべく、国内外でのワークショップを継続的に開催し、また積極的に国外での発表を行い、美術史、東洋史、宗教史の研究者を交えた学際的な観点から、大徳寺五百羅漢図をはじめとする南宋仏画について、その社会史・地域史的意義、グローバルアートとしての今日的意義について議論した。

### 1) 「南宋絵画研究の現況と課題 | 李唐をめぐって」(九州大学文学部:2012年2月6日)

南宋の宮廷画壇を代表する李唐における北宋絵画の援用、南宋仏画における李唐画の受容について議論した。

発表者：井手誠之輔(九州大学)、陳韻如(台北故宮博物院)

- 2) Harvard 500 Luohan Workshop(ハーバード大学:2012年2月18日)、ハーバード大学 Yukio Lippit 氏と共催。

大徳寺伝来の五百羅漢図に関する最新の研究成果にもとづいて、井手とともに、北澤菜月(奈良国立博物館)、Sukhee LEE (Rutgers University)、Phillip BLOOM (Harvard University)、Gregory LEVINE (UC Berkeley)の都合5名が研究発表を行い、学際的な観点から議論した。

- 3) 「南宋仏画とその周縁」(佐賀県立美術館:2012年2月25日、26日)

佐賀県立美術館における鏡神社所蔵の水月観音像の特別陳列にあわせ、宋代絵画の朝鮮における受容やアイコンとしての機能について協議した。

- 討議:井手誠之輔(九州大学)、ユキオ・リピット(ハーバード大学)、京谷啓徳(九州大学)

- 4) 「南宋仏画と儀礼」(九州大学文学部:2013年2月27日)

南宋仏画の意味と機能について、その絵画表象から考えることを目的とし、宋代の仏教儀礼と仏画との関係性について議論した。

発表者:井手誠之輔(九州大学)、谷口耕生(奈良国立博物館)

- 5) 「南宋時代仏教絵画の諸問題」(東京大学東洋文化研究所:2014年1月6日)コーディネーター:板倉聖哲(東京大学)

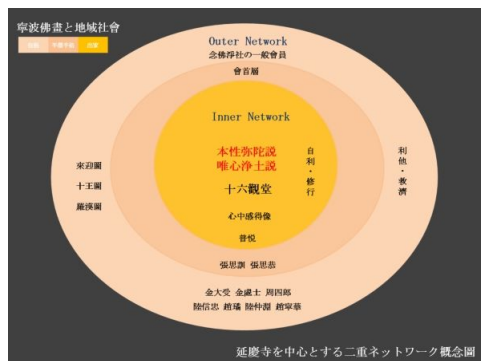
研究発表とあわせて、「南宋における仏教絵画をめぐる場 寧波と杭州、宮廷と民間、寺院と儀礼・信仰」と題し、参会者で議論した。

発表者:井手誠之輔(九州大学)、Phillip BLOOM(インディアナ大学)

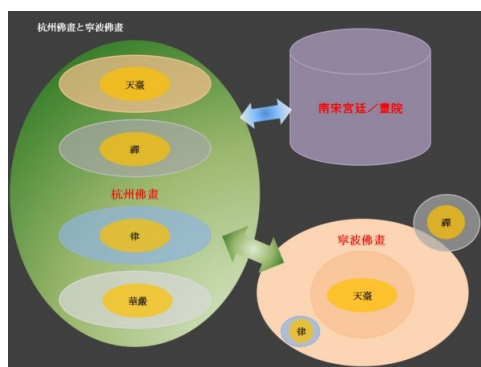
#### 4. 研究成果

研究代表者が提示してきた寧波仏画と地域社会との関係性の概念モデル(挿図1)を参照しつつ、それを南宋の都杭州にお

るさまざま宗派と宮廷画壇との関係性の文脈の中へ転換し、南宋仏画の位相をしめす概念モデル(挿図2)を新たに作成した。



挿図 1



挿図 2

これらの概念モデルについては、国内外でのワークショップ等で開示し、多方面からの議論を参照しつつ修正した。従来の一面的な把握ではなく、寧波であれ、杭州であれ、仏画と地域社会という観点から導き出される多面的かつ有機的な構造をもつ中国の絵画史の文脈は、それらを受容した中国の各地域や朝鮮や日本の周縁国においてどのような選択肢があったのか考える上でも有効なモデルとなる。

また南宋仏画のもっとも重要作となる大徳寺伝来の五百羅漢図については、これまでの研究を総合的にまとめ、『大徳寺伝来五百羅漢図』(思文閣出版)に反映させることができた。南宋絵画研究の再構築をめざし、基本的な概念モデルと作品研究の基礎資料の双方を学界に提示できたことは、本研究の成果として最も意義が深い。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 15件)

Seinosuke Ide, "Standing on the Fringes: An Interactive Perspective on Sohon Buddhist Paintings in Japanese Collections," Between East and West: Reproduction in Art, Proceedings of the 2003 CIHA Colloquium in Naruto, Japan, forthcoming(2014), 査読無

井手誠之輔、大徳寺伝来五百羅漢図の成立背景(承前)、『大徳寺伝来五百羅漢図』(2014)、268-283、思文閣出版、査読無

谷口耕生、木村徳応筆五百羅漢図 失われた大徳寺本六幅をめぐる、『大徳寺伝来五百羅漢図』(2014)、290-295、思文閣出版、査読無

谷口耕生、清凉寺釈迦如来立像旧厨子扉絵考 金光明諸天図の一違例、『仏教美術論集 5 機能論 つくる・つかう・つたえる』(2014)、372-397、竹林舎、査読無

井手誠之輔、韓国仏画研究と東アジア的観点、日本學(東国大学日本研究所)、37(2013)、47-74、査読無

板倉聖哲、仏教絵画と宮廷 南宋・馬遠「禅宗祖師像を中心に」、『シリーズ大乘仏教 10 大乘仏教のアジア』(2013)、191-215、春秋社、査読無

Seinosuke Ide, "Visual Representations of Devotional Deities in Song and Yuan Dynasty Buddhist Painting," Images and Visions in Christian and Buddhist Culture, 8 (2012), 62-84, 査読有

板倉聖哲、「桃鳩」イメージの変容 王権の表象から平和の象徴へ、アジア遊学東アジアの王権と宗教、151(2012)、196-207、

査読無

板倉聖哲、幕末期における東アジア絵画コレクションの史的 position 谷文晁の視点から、美術史論叢、28 (2012)、27-44、査読有

塚本麿充、皇帝の文物と北宋初期の開封 啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について (下)、美術研究 406、1-26 (2012)、査読有

塚本麿充、「清明上河図」の魅力 「清明上河図巻」と宋代の視覚文化、東京国立博物館特別展図録『特別展北京故宮博物院 200 選』、156-162 (2012)、査読無

井手誠之輔、唐絵としての渡来仏画、美術フォーラム 21、26 (2012)、114-119、査読無

塚本麿充、北宋初期宮廷收藏與目錄 《舍利感應記》到《龍圖閣瑞物目》、『宋都開封與十至十三世紀中國史』國際學術研討會暨中國宋史研究會第十五屆年會論文集(文化史組)』(2012)、1-16、河南大学、査読無

井手誠之輔、礼拝像における視覚表象 宋元仏画の場合、死生学研究、16 (2011)、64-85、査読有

塚本麿充、皇帝の文物と北宋初期の開封 啓聖禅院、大相国寺、宮廷をめぐる文物とその意味について (上)、美術研究、404、391-416 (2011)、査読有

[学会発表](計 11件)

Seinosuke Ide, On Five Hundred Luohan Painting of Daitokuji: Its Production Context and Art Historical Significance in the History of Southern Song Painting, Co-sponsored Lectures 2013-14, Stanford University, 2014.03.13、アメリカ、スタンフォード大学

Seinosuke Ide, Buddhist Paintings from the Southern Song Ningbo, Co-sponsored

Lectures 2013-14, Stanford University, 2014.02.27、アメリカ、スタンフォード大学

井手誠之輔、大徳寺伝来五百羅漢図研究の現況と課題、東文研シンポジウム「南宋時代仏教絵画の諸問題」、2014.01.06、東京、東京大学東洋文化研究所

Seinosuke Ide, From Text to Context: Secularization in Parinirvana Paintings of the Southern Song, International Conference: Moving Signs and Shifting Discourses, 2013.06.27、ドイツ、ベルリン自由大学

井手誠之輔、韓国仏画研究と東アジア的観点、国際シンポジウム「美術史から見た韓国、日本」、2013.06.21、韓国、東国大学日本文化研究所

Seinosuke Ide, Standing on the Fringes: An Interactive Perspective on Sōhon Buddhist Paintings in Japanese Collections, 2013 CIHA Colloquium in Naruto, “Between East and West: Reproductions in Art,” 2013.01.16、鳴門市、大塚国際美術館

Seinosuke Ide, Reception of Goryeo Buddhist Paintings in Pre-modern Japan, Arts of Korea: Histories, Challenges and Perspectives, 2012.12.01

塚本麿充、北宋初期宮廷收藏與目錄《舍利感應記》到《龍圖閣瑞物目》、宋都開封與十至十三世紀中國史”國際學術研討會暨中國宋史研究會第十五屆年會、2012.08.12、中国、河南大学

塚本麿充、コレクション、宝物から美術へ 東アジアの視点から、美術と宝物との相関性についての比較美術史的研究ワークショップ、2012.07.29、東京、東京大学東洋文化研究所

Seinosuke Ide, The Production Context of the 500 Luohans: From the

Perspectives of Local History and Social History, Harvard 500 Luohan Workshop, 2012.02.18、アメリカ、ハーバード大学

井手誠之輔、南宋仏画における李唐画の受容、南宋絵画研究の現況と課題 李唐をめぐって、2012.02.06、福岡、九州大学文学部

〔図書〕(計 1 件)

谷口耕生、井手誠之輔、北澤菜月、原瑛莉子、近藤一成、城野誠治執筆(奈良国立博物館・東京文化財研究所編) 大徳寺伝来五百羅漢図、思文閣出版、2014、312

〔その他〕

ホームページ等

[http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~aesthe/workshop2012/workshop2012\\_01.html](http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~aesthe/workshop2012/workshop2012_01.html)

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=TueJan141003302014>

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

井手 誠之輔 ( IDE SEINOSUKE )  
九州大学・大学院人文科学研究院・教授  
研究者番号 : 30168330

### (2)研究分担者

板倉 聖哲 ( ITAKURA MASA AKI )  
東京大学・東洋文化研究所・教授  
研究者番号 : 00242074

谷口 耕生 ( TANIGUCHI KOSEI )  
独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物館・保存修理指導室長  
研究者番号 : 80343002

塚本 麿充 ( TSUKAMOTO MAROMITSU )  
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・研究員  
研究者番号 : 00416265